

今週のビルマのニュース 2011年11月4日 (1135号)
特集：日本政府がODAを検討中のバルーチャウン水力発電所とは

【バルーチャウン水力発電所 背景情報】

- ・ 玄葉外相は10月21日、来日していたビルマ（ミャンマー）のウンナマウンルウィン外相に対し、ビルマ政府が民主化に向けて前進していると、「我が国が継続的に支援してきたバルーチャウン第二水力発電所補修案件につき現状把握のための調査を行う用意がある」と述べた。
- ・ ビルマ東部カレンニー州にあるバルーチャウン（*）第二水力発電所は日本の戦後賠償によって建設され、最近では2002年にODAによって補修工事を行う約束がされたが、その後工事が中断していた。
- ・ バルーチャウン発電所があるカレンニー州では、少数民族であるカレンニーの武装勢力と政府軍との対立が続いており、発電所の周辺には警備のために多数の政府軍兵士が駐屯。
- ・ 同発電所が周辺地域に及ぼす環境・社会的悪影響を調査してきた「カレンニー開発調査グループ（KDRG）」によれば、発電所が建設された時には地域の軍事化に伴い、政府軍兵士による性暴力、超法規的処刑、強制労働などの残虐行為が頻発した。現在も発電所や送電塔の周辺には推定1万8,000個の地雷が埋設され、住民の移動や生活に支障を来しているという。
- ・ KDRGと、ビルマ国内の水力ダム開発を監視する「ビルマ河川ネットワーク（BRN）」は2日、「日本はバルーチャウン発電所への新たな援助を検討する前に周辺の人権状況を調査すべき」とする声明を出した。

（*）「チャウン」はビルマ語で「小さな川」を意味する。外務省は「バルーチャウン」と表記。

【注目アイテム】

- ・ ビルマ河川ネットワーク（BRN）及びKDRGのプレスリリース「日本はバルーチャウン水力発電所に関連した人権侵害を調査すべき — 新たな援助を検討する前に」（2日）。特定非営利活動法人メコン・ウォッチが日本語訳を掲載：http://www.mekongwatch.org/resource/news/20111104_01.html
- ・ 「日本政府の援助方針に反対の声 支援を検討中の水力発電所周辺に『1万8,000個もの地雷』」（4日アジアプレス経由 Yahoo!Japan）：<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20111104-00000000-asiap-int>
- ・ カレンニー開発調査グループ「ビルマ軍政下のダム開発 カレンニーの教訓、バルーチャウンからサルウィンへ」（2006年3月）日本語版：<http://www.burmainfo.org/article/article.php?mode=1&articleid=489>

【政府開発援助（ODA）ほか】 新たな発表はなし。

【イベント情報】（〔 〕内は主催者。共催等は省略）

- ・ [アムネスティ・インターナショナル日本] 『This Prison Where I Live わたしが住む、この監獄』上映&元ビルマ政治囚による講演（日本大学法学部三崎町キャンパス3号館350教室、6日14時～17時半）
- ・ [ビルマ市民フォーラム] 第66回例会「ビルマの少数民族問題および日本政府の対ビルマ政策への要望」（池袋・生活産業プラザ（ECOとしま）8F、12日18時～）
- ・ [関西学院大学] 2011年度大学主催秋季人権問題講演会「『民政移管』後のビルマ（ミャンマー）：開発事業がもたらす環境・人権への悪影響」ビルマ情報ネットワーク秋元由紀（関西学院大学上ヶ原キャンパスB号館101号教室、12月1日16時50分～）
- ・ [関西学院大学人権教育研究室] 「ビルマ（ミャンマー）の今 2011」写真展・トークセッション 宇田有三、秋元由紀（関西学院大学図書館。写真展11月28日～、トークセッション12月2日15時10分～）

もっと詳しい情報・お問い合わせは
ビルマ情報ネットワーク <http://www.burmainfo.org>